

このコラムは、日本語の仕組みや使い方などを考えるコーナーです。
どうぞ、コーヒータイムのときにも、お読み下さい。

ことばのコラム ひとくちメモ (276)

拡張新字体

夕食のあと、タモツ君のおばあさんがおじいさんと話しています。

「拡張新字体というのは、当用漢字表の字体が他の漢字の部分になっていたら、その字体をあてはめるというのでしたよね。」

「そう。たとえば、區が区になったから、鷗も鷗になってしまうというやり方。」

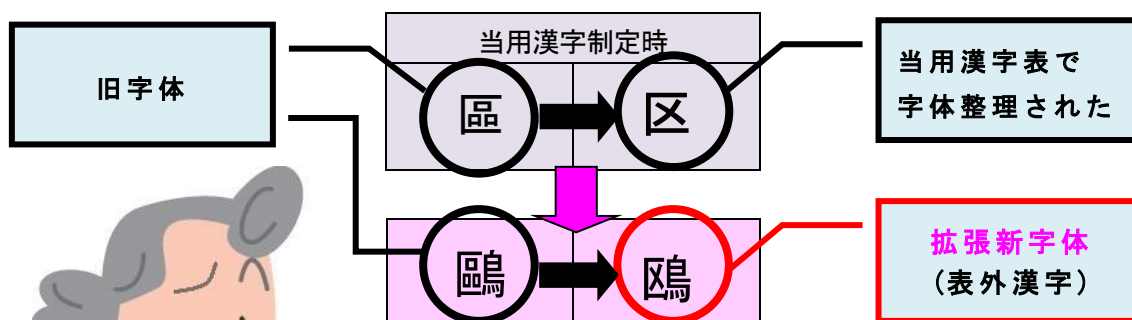
「會が会になったので檜ひのきが桧ヒノキになったり、眞マコトが真マコトになったので顛覆テンボクが顛覆テンボクになったり、肅ソウが肅ソウになったので刺繡シシュウが刺繡シシュウになったりしたのでしたね。」

「新しい常用漢字表には、危惧キケンの惧クミや便箋ベンセンの箋セン、嘲笑チウジョウの嘲ジョウ、進捗シンシュクの捗シュク、溺愛ニョクアイの溺ニョク、補填ホテンの填テン、比喩ヒョウの喩ユなどのように、古い字体で収められたから、厄介だね。」

「点画が省かれていたり点画の向きが違っていたり……、微妙で見分けにくいですね。私のワープロは古くて、フォントが拡張新字体になっているので、困ります。」

拡張新字体とは、

常用漢字の字体整理の考え方を、表外漢字に適用した字体のこと。



例えば、溺愛の溺ニョクは、上のような拡張新字体のルールでは、サンズイに弱で溺ニョクになるはずだけど、新しい常用漢字表では溺ニョクとなっていて、弱と点画の向きが違っています。ややこしいですね。